

患者さまへ

「Stanford A 型急性大動脈解離における ULP 型解離の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2011 年 5 月から 2022 年 11 月までに当院で入院治療をおこなわれた Stanford A 型急性大動脈解離の患者さま。
2 研究目的・方法	急性大動脈解離のいくつかの分類のうち、Ulcer-like projection (ULP) 型解離の臨床的特徴を把握することを目的とし、既に得られている当院の Stanford A 型急性大動脈解離の患者さまの診療録の情報から検討します。 研究の期間: 施設院長許可(2023 年 10 月予定)後～2025 年 10 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	情報: 年齢、性別、病歴、CT 所見、検査値、退院後の合併症、予後 等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 実施医療機関: 大隅鹿屋病院 研究責任者: 心臓血管外科・院長 中山 義博 連絡先: 0994-40-1111(代表)

2024 年 9 月 18 日作成(第 3 版)

《ULP 型解離について》

大動脈解離における分類で、偽腔に血流が残存し開存しているものを偽腔開存型、偽腔が血栓にて閉塞しているものを偽腔閉塞型と分類されます。偽腔内にサイズが頭尾側方向に 15 mm 以下(5 mm スライス厚 CT 横断像にて 4 スライス)の造影効果が認められるものを ULP 型解離と分類されます。ULP 様であっても上記以上の

場合は偽腔開存型に分類されます。

<下図は 2020 年改訂版 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドラインより引用>

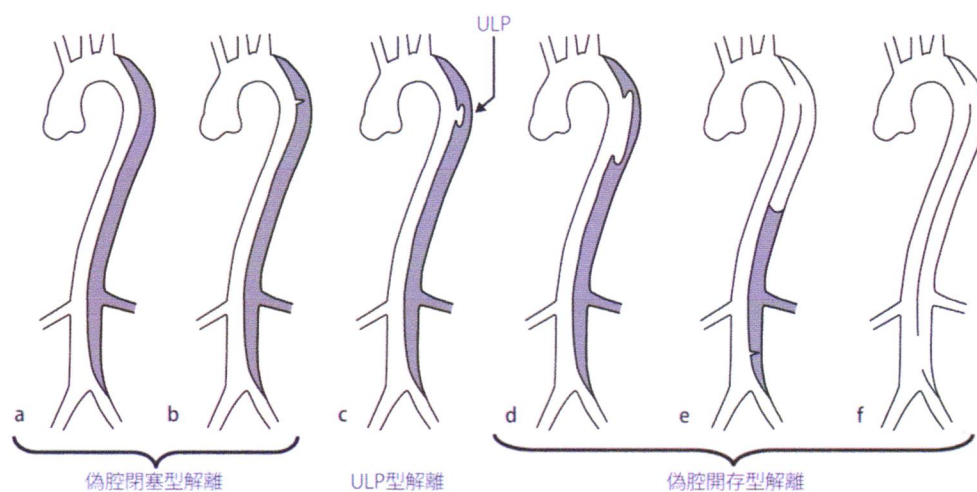


図7 偽腔の状態による大動脈解離の分類